

今も昔も人をうるおす

古井池物語

今



古井池に建てられた市民文化ホール「しこちゅ〜ホール」

昔



地元公民館が所蔵していた貴重な写真
昭和当時の面影が色濃く遺されている

市民文化ホール「しこちゅ〜ホール」（妻鳥町）の場所に「古井池」というため池がありました。

ため池は、農業用水を確保するために古くから雨が少なく大きな川がない地域で造られ、市内では今も50を超えるため池があります。

古井池は、江戸時代の築造といわれています。米が社会の中心だった当時は、新田開発と水の確保が重要でした。宇摩郡内（現在の本市に相当）で有数の石高を誇った妻鳥村の古井池は、その役割を担い、修築を重ね、現代まで受け継がれてきました。



写真左下の古井池周辺には田畑が広がっていた
(昭和後半頃)

氏神秋大祭の季節には、古井池の北堤に8、9台の太鼓台が勢ぞろいし、壮観な眺めに多くの人が賑わったと伝えられているほど、古井池は地元の生活や文化に深く溶け込んだ存在でした。

そして妻鳥地区土地改良区が所有していた古井池は、ため池としての役割を全うし、今では、市民文化ホールとしてコンサートや演劇、展示など、四国全域から多くの人が集い、文化交流を通じた人の心を「うるおす」場所となりました。ホール正面玄関のモニュメントが水の流れとともに、そのいわれを静かに伝えていきます。



かつての農協前（現：妻鳥小横）と疏水感謝祭

6/30(金) 企画展 水とともに

歴史考古博物館—高原ミュージアム—

8/31(木)

宇摩で起きた水争い…
雨を求めた雨乞い…
水に関連する民具… など

無料

学芸員による展示解説会
7/15(土)・7/16(日)

歴史考古博物館 28-6260
(休館日) 月曜日・7/18(火)・8/15(火)



しこちゅ〜ホール玄関側にあるモニュメント
後世へ古井池のいわれを遺すために設置されました